

中東情勢の現状と行方
～資源エネルギー・金融情勢の動向を左右する大国間パワーゲーム～

ロシア・中央アジア担当：畔蒜泰助 研究員

<課題・関心事項> ※箇条書き 目安 3～5 件程度

- ① イラン核開発問題を巡る米ロの協調と対立の行方
- ② イランの天然ガス開発とその輸出先
- ③ 中東和平問題を巡るロシアの関与
- ④ ロシアによるサウジへの武器輸出交渉の行方
- ⑤ アフガン情勢安定化を巡るロシアの関与

<解説>

■ 上記② イランの天然ガス開発とその輸出先について

ロシアに天然ガス供給の多くを依存する欧州諸国にとって、ロシア産天然ガスへの依存度を大きく下げることが可能な唯一がイラン（+カスピ海・中央アジア）から天然ガスを輸入する道を開くことである。一方、欧州諸国へのエネルギー輸出で主導的立場にあることによって、同地域への影響力を担保しているロシアにとって、イランの天然ガス開発とその輸出先の問題は地政戦略上の意義を有している。ロシアにとって「イランーパキスタンーインド」天然ガス PL 建設構想や天然ガス OPEC 構想もまた、上記と密接にリンクして問題である。

■ 上記④ アフガン情勢安定化を巡るロシアの関与について

ロシアはこの4月、NATO 軍がアフガンへの物資を輸送する際、自国領内を通過することを許可することで合意した。これは、従来のパキスタン経由の輸送ルートが、同国情勢の不安定化から機能しなくなったのを受けてのこと。先のアフガン紛争での苦い経験を有するロシアにとって、同国の安定化の為に派兵するという選択肢は皆無に等しい。その一方で、中央アジア諸国と国境を接し、チェチェン問題への波及の可能性もあるアフガン情勢の不安定化は、ロシアの安全保障にも直結する問題であり、またこれは、NATO (米+欧)との関係を安定化させる為のカードでもある。なお、中国が加盟する上海協力機構の枠内でのアフガン情勢への関与についても、最近、話題に上り始めた。アフガン情勢を巡り、今後、ロシアが、NATO 並びに上海協力機構とどのような立ち位置を取るか要注目である。